



## 「来年こそはみんなで」

にいがた花絵プロジェクト

今年で活動29年目を迎えた「にいがた花絵プロジェクト」。球根栽培のため廃棄してしまうチューリップの花の部分を使う大きな花絵制作も新型コロナウイルスの影響を受けています。毎年、花摘みから花絵制作までを行う市民ボランティアを募り、総勢300名以上でゴールデンウィークに巨大花絵を作っていました。しかし、昨年はコロナウイルス感染拡大防止のため花絵制作は中止に。今年は市民ボランティアの募集は行わず、実行委員のみでの制作となりました。来年こそは、家族・友人・会社の同僚、みんなで花絵作りができるようになるといいですね。

にいがた花絵プロジェクト実行委員長 関さん

「今年の「巨大花絵」は新潟のチューリップ畑を再現しました。胎内市での花摘みはとても気持ちよく、ヒバリのさえずりも聞こえました。来年こそは市民の皆様とともに花摘み・花絵制作ができることを楽しみにしています。」



2017「雅な街～にいがた～」



2018「明るい港町」



2019「みんなでおにぎり」



2021「チューリップ畑へ行こう！」

## 「花育俳句」まもなく募集開始

2回目となった令和2年度の花育俳句には全国の小学生から90代まで778人1,130句の応募がありました。「花」が主役の俳句に心がなごみました。コロナ禍での生活が長くなっているいま、花や緑に癒されている方も多いですね。その日々の出来事や思い出を5・7・5調にのせ詠んでみませんか？

今年度の募集は9月1日から。詳細が決まり次第、新潟市ホームページや市報にいがたでお知らせします。今回から4つのお題で募集します。お楽しみに！

花育俳句

検索



優秀作品には市産鉢花や球根をプレゼント(写真はイメージ)

故郷へ  
いつか帰れと  
雪椿  
令和2年度優秀作品  
埼玉県四十代男性

<発行・問合せ> 新潟市農林水産部 食と花の推進課 食育・花育担当

〒951-8554 新潟市中央区古町通7番町1010番地 ふるまち庁舎4階 Tel: 025-226-1792

E-mail: [shokuhana@city.niigata.lg.jp](mailto:shokuhana@city.niigata.lg.jp)

【花育通信 Vol.39 2021年7月発行】

にいがた

# 花育通信

- Contents -

Vol. 39

◎農業活性化研究センターってどんなところ？

◎地域の花育活動

◎花育 NEWS



新潟市食育・花育推進キャラクター【公式】Instagram

まいかちゃん  
インスタやってるよ！  
フォローまってるっば〜



2020年度 花を贈る日キャンペーン「サマーリリーフェア」より



まいかが行く

## 新潟市農業活性化研究センター

ってどんなところ？

(新潟市南区笠巻新田)



建物の奥にはたくさんのビニールハウスと屋外栽培用の畑があったよ



新潟市南区、アグリパークの隣にある建物、これが「新潟市農業活性化研究センター」です。この施設は新潟市の農業がもっと発展するように、農家みなさんが抱えている技術的な課題などについて調査研究している施設です。研究は野菜、果樹、花、薬草と広範囲なので、今回は「花」を中心にお話を聞いてきたよ。普段なかなか見られない場所にドキドキ！



ヒマワリのボックス栽培



新潟は冬場の花の収穫が難しいです。それをなんとかするために、センターでは本来は春に咲く花を冬に咲かせられるかを調べていたよ。

「連作障害」ってなんだろう？  
同じ畑で同じ花を作り続けていると、「連作障害」といって、花が上手く育たなくなっちゃうんだって。だから、普通は畑の場所を変えたり、違う花をつくらしたりするよ。でも、広い畑を持っていない限り、限界がきちゃう。センターでは、連作障害対策としてボックス栽培の研究をしていたよ。ボックスに土を入れて、花を栽培して、上手く栽培できなくなったら、土を入れ替えるんだって。ボックスを置く場所を変えなくてもいいので、狭い日本にはピッタリかも。このように新しい栽培方法を農家さんに紹介することもお仕事なんだね。すでにこの栽培方法をしている農家さんもいるらしいよ。これからどんどん増えていくといいね。



花の部分は摘み取り、根の部分が漢方になる。摘んだお花の部分は市内の小学校や保育園で飾ってもらってるんだって。写真のシャクヤクの他にも数十種類が漢方用に育てられていたよ。

センターでは、「土の健康診断」もしているんだ。農家さんからの依頼で、田んぼや畑の土を分析するんだって。肥料のやり方も相談にのってくれるよ。今はたくさんの土の健康診断のお願いがあるそうです。(土の分析は有料)

※一般家庭での園芸や家庭菜園の相談は  
食育・花育センターの園芸相談へ  
Tel.025-282-4187(無料/毎週火曜日休み)

薬草も研究していたよ。今は、中国から漢方の原料をたくさん輸入しているけど、将来輸入ができなくなったときに備えて、日本国内で漢方の原料を仕入れられるように、新潟市も含めていろんなところで、薬草の栽培がはじまっているんだって。センターの研究結果は、今後 YouTube で公開予定だよ。SNSでも普段の活動が紹介されているから、みんなも登録してね！

農業活性化研究センターQR



Twitter



Instagram



ホームページ

## 「花で世代間交流 in 矢代田駅」

山の手コミュニティ協議会 小須戸中学校 矢代田小学校 矢代田保育園



こちよい風が吹き抜け初夏を感じるこの日、JR 信越線「矢代田駅」にはにぎやかな声が響いていました。地域の皆さんと地元小・中学校の児童生徒、保育園園児、総勢200人による花壇・プランターにペゴニアを植える活動が行われました。新しい駅舎ができた頃、「花のまち」にある駅を花できれいにしようと地域の方々の手で花植えが始まり、その後、小須戸中学校の生徒が地域貢献の一環として参加、そして矢代田小学校、駅の近くに移転した矢代田保育園の園児も参加するようになりました。昨年は新型コロナウイルス感染拡大防止のため地域の方だけで行われましたが、今年は感染防止対策を行い、子どもたちも参加することができました。幅広い世代が花を通じて交流する姿は、初夏の空気と同じ爽やかさを感じさせてくれました。



最初に全体説明をうけ、各班に分かれて作業します。みんな真剣です！



中学生のお兄ちゃん、お姉ちゃんが先生になって、小学生や保育園児に植え方を教えてあげていました。最初は緊張していた子どもたちも、最後はみんな笑顔いっぱい、力を合わせてたくさんの植込みが完成しました！毎日の水やりやお花の管理は地域の皆さんが交代でしてくれます。暑い中、ありがとうございます。「花のまち」で「花」で地域と子どもたちがつながる素敵な活動風景でした。これからも頑張ってください！

